

優秀映画鑑賞会  
推薦

民俗芸能の心

くに さき しゅ じょう おに え  
国東の修正鬼会  
おん  
——鬼さまが訪れる夜——





大松明あげ▶



日本人は、古来から神仏、精霊とのかかわりを大切にしてきました。そこから生まれたのが、心と命の表現といえる民俗芸能です。日本の各地には、多種多様の民俗芸能が存在しています。民俗芸能は、その地方の人々の願いにしたがってさまざまな形を生み出し、素朴で豊かな表現や、そこに生きる人々の強い心のつながりを培ってきたのです。

しかし、近年わたしたちの生活が変わるにつれ、民俗芸能は、一つの刺激的な娯楽としか考えなくなった人が多いのではないのでしょうか。

生活に根をおろした民俗芸能に息づく、素朴で根源的な人間の心を失いたくないものです。

●大分県国東半島に今も伝わる修正鬼会は、厳しい風土に生きる国東の人々の素朴で温かい心に支えられ、今日にまで守り受け継がれてきた民俗芸能である。

旧正月7日、大分県東国東郡国東町、岩戸寺では豊作と家内安全を祈願して修正鬼会の儀式が行なわれる。鬼会前日の岩戸寺では、朝から準備に忙しい。鬼会の準備は、男の手だけで進められる。6基の大松明づくり、鬼の面化粧、餅つきなど。とどこおりなく準備が終る頃には、日はとっぷりと暮れている。——村人達の心は、鬼会に向って、一つに結ばれていく。

修正鬼会の鬼の面は、どこかユーモラスで親しみを感じさせる。これは、国東の鬼が追い払う鬼ではなく、福を村人にもたらしてくれる福鬼だからである。

鬼会の当日、鐘の音に招えられて近くの寺々から僧達がやってくる。昔からの行法の順序に従って鬼会は進められる。僧達による昼の勤行は、日が暮れるまで続く。鬼の介添役の松明入れ衆達は、身を清め院主と盃の儀をかます。

いよいよ、鬼会はクライマックスを迎える。大松明に火がつけられ、仏に奉げられる。大松明が勢いよく燃えあがった年ほど豊作になるといわれている。この頃には大勢の見物人や参拝者で、寺はにぎわいをみせる。

夜の勤行では、立役と呼ばれる僧の舞いがりズミカルに演じられる。一般の参拝者も僧と一緒に演舞することができる。まさしく僧俗一体の儀式といえる。

荒鬼は仕度が整うと、松明入れ衆達を介添に六所権現にかけ登り、祈禱後、鬼を待つ家々へ向けて一気にかけて下りて行く。鬼は訪れた家々の安全を祈り、仏の供養をする。——午前5時、疲れきった鬼と松明入れ衆達が寺に帰ってくる。鬼鎮めが行なわれ、夜を徹した修正鬼会は終る。

千百数十年の昔、仁聞菩薩によって始められたといわれる修正鬼会も、今では、六郷満山28ヶ寺のうち岩戸寺、成仏寺、天念寺に残るだけの行事となっているが、今も国東の人々の心に深く根をおろしている民俗行事である。

## 修正鬼会について

●六郷満山の各寺で行われていた修正鬼会の起源は詳らかでないが、開基仁聞菩薩が養老年間の初め、国家安穏、五穀豊穰、万民快樂、息災延命のために、六郷28ヶ寺の僧を集め「鬼会式6巻」を下賜された。満山はこれを受けて大法要を厳修したのが、国東六郷満山に伝わる修正鬼会の初め



香水▶

## くに さき しゅじょう おに え 国東の修正鬼会

### 本田 安次

(元)文化財保護審議会専門委員

大分県の国東半島、六郷満山は、昔仏教の栄えたところである。奈良時代、養老年間に開基仁聞菩薩に始まったと伝えられる修正鬼会は、読経の功德により神仏示現し、悪魔退散、五穀成就、息災延命の祈願を果してくれるものと信ぜられている。しかし明治維新後は僧坊も住僧も減少し、六郷28ヶ寺夫々で行われていた修正鬼会も、今は東組国東町の岩戸寺、成仏寺、西組豊後高田市の天念寺のみの行事になってしまった。

岩戸寺の修正鬼会は、隔年、偶数年に催されるが、先ず旧正月6日の朝から準備にかかる。夫々役ものが6基の大松明を始め各種の松明、華鬘、牛王杖等を作り、餅を搗き、面の化粧などもする。7日が鬼会の当日。東組の僧たちが集まり、昼の勤行が始まる。以前は夕方からであったが、今は伽陀、懺法、序音、回向、佛名等を昼のうちに済ます。一方、村の松明入れ衆達は、垢離取瀨で水垢離をとって身を清め、本堂で院主を中心に盃の儀がある。やがて大松明に火がつけられ、六所権現、薬師堂、講堂等のある後山へ登って行き、大松明は六所権現にさざげられる。

かくて初夜、法咒師、神分以下の夜の勤行になる。米華以下は立役と言って僧は軽装して舞う。「香水」では特に院主と長老の僧とが手に削掛のある香水棒を持ち、互に打合せつつ足拍子も踏んで舞う。周囲の人々も一緒に舞う。諸天に祈る重要な舞とされている。「鈴鬼」が最後に荒鬼を招く。荒鬼は災払鬼、鎮鬼と呼ばれ、僧兩人が扮するが、松明入れ衆と共に輪になり、中に村人たちを入れ、手にした松明で肩、背、尻等を軽く叩いてやり、魔を払い除け、息災を祈る。後、鬼たちは講堂をとび出し、区内の各戸を訪れて家内の安全を祈る。夜が明ける頃鬼は講堂に戻るが、ここで鬼鎮めがあり、修正鬼会は終る。激しくもまた心暖まる行事である。

と語り伝えられている。

- 戦後の昭和25年に復活。現在、岩戸寺、成仏寺、天念寺において伝承されている。
- 昭和52年5月17日に国の重要無形民俗文化財に指定された。



作 品 名：シリーズ〈民俗芸能の心〉

くにしき しゅじょうおにえ  
「国東の修正鬼会」

おん  
— 鬼さまが訪れる夜 —

(35mm/カラー/30分)

企 画 製 作：財団法人ポーラ伝統文化振興財団

製 作 協 力：日本テレワーク株式会社

製作スタッフ：監 修・本田安次

製 作 指 導・高橋秀雄

脚 本・監 督・葉 方 丹

撮 影・古本久之 録 音・吉田一明

音 響・山崎 宏 編 集・内田純子

製作担当・久米義男 ナレーター・岡部政明

協 力：文化庁文化財保護部

大分県教育委員会

大分県国東町

岩戸寺修正鬼会保存会

成佛寺修正鬼会保存会

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

財団法人 **ポーラ伝統文化振興財団**

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-2-10 ポーラ第2五反田ビル2階  
TEL.03-3494-7653 FAX.03-3494-7597